



百花鳥圖畫

卷之四



何...

何...

何...

何...



卯むや膳出候り郭云

吳丈

七十三

卯花

花はこえけまきまきまの具にてけまきま
係まきまのけまきまの具にてけまきま

杜鵑

- 杜宇 子規 子雋 蜀魄
- 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 買鏡
- 時鳥 霍公 別都頌宜壽

昔を改めたるは昔中よりみくま
は昔にて府とけまきまをへまきまの具にてけまきま
くまきまの府をへまきまの具にてけまきま
とみまのけまきまの具にてけまきま

七十四

雞冠

雞頭花

花は赤の肉をよまきまの具にてけまきま
花はこえけまきまの具にてけまきま
花はこえけまきまの具にてけまきま
花はこえけまきまの具にてけまきま

鴨

昔を改めたるは昔中よりみくま
は昔にて府とけまきまをへまきまの具にてけまきま
くまきまの府をへまきまの具にてけまきま
とみまのけまきまの具にてけまきま

七
一
九



連翹
小口流
ハ
為
じ
理
花
の
名



女羅架
琴
松

七十五

連翹

花より先の長竹を差まのけりて
ふれ〜

榴璃

翠雀

葉は夏まで花より背中へんがらほてま
より風切尾をほしてほしひのほろりてね
り同も去下後ごらんるは同も去とごり

七十六

風蘭

花より先の長竹を差まのけりて
枝葉ろくせうけりて白編けりてまのけ
りて入る

啄木鳥

鴉

は南まで花よりこまづりまでにはあく朱
のくはらひのくはらひのくはらひのくはらひ
毛より背中ほろりて府をけりて
くまごらんる入るくもくもくもく



花より先の長竹を差まのけりて
枝葉ろくせうけりて白編けりてまのけ
りて入る

は南まで花よりこまづりまでにはあく朱
のくはらひのくはらひのくはらひのくはらひ
毛より背中ほろりて府をけりて
くまごらんる入るくもくもくもく

王冠千来



畫工精妙沙羅樹 碧鳥如生豈不翺
欲問涅槃真實相 堪憐嗟背絕鳴傲

玉宗千乘

七十七

沙羅雙樹

花ごらんくまごらんゆきまごらんて
るどまごらんくまごらんてあなほゆるりまの
けごらんまごらんてあなほゆるりまのけごらん
くまごらんて

碧鳥

此鳥是也其後白くまごらんてあなほゆるりまの
後たごらんまごらんてあなほゆるりまの
あなほゆるりまの

七十八

牽牛花

朝白

花ごらんくまごらんゆきまごらんて
るどまごらんくまごらんてあなほゆるりまの
けごらんまごらんてあなほゆるりまのけごらん
くまごらんて

忍ふ

此鳥是也其後白くまごらんてあなほゆるりまの
後たごらんまごらんてあなほゆるりまの
あなほゆるりまの

日よりのむやみかりのけしき

千雀



ほりろい百奈深山のけしき

少年
金助

七十九

百合 薤瞿

赤白あり赤いはれし枕肉色茶にて全ま
しつとて多し果てはまをながして白いと
付る白いごうんはあやけてつとごうん
つとまぶはあやけて白いを入る白細
茶の編る茶の汁は

深山類白

常山類はしと多し飯中まで上の茶
ごうんはあやけてはまをながして白いと
つとごうんはあやけてはまをながして

八十

仙豆秋

花合茶土茶緑茶茶の汁はは
枝本枝茶どろろとて入る

鳥

常山類はしと多し飯中まで上の茶
ごうんはあやけてはまをながして白いと
つとごうんはあやけてはまをながして



喜鳥 常一住 春

沙鷄 岑水



青鳩と名づくもわづらひの葉葉うか

玄詞

八十一

芝蘭

花名々の具わりと多ふはてうりうま
はよべー葉こじん備有ううは備有の
す

鶉

此鳥は草の葉目の内朱すくはより也
うしこまふんまよまれけうすうけ合葉
去うてまわいとわくはら風切尾は
んまこまふんまよまれけうすうけ合葉
編うまふんまよまれけうすうけ合葉

八十二

椿

花名々の具多ふはまよまれけうす
うしこまふんまよまれけうすうけ合葉
去うてまわいとわくはら風切尾は
んまこまふんまよまれけうすうけ合葉
編うまふんまよまれけうすうけ合葉

青鳩

此鳥は草の葉目の内朱すくはより也
うしこまふんまよまれけうすうけ合葉
去うてまわいとわくはら風切尾は
んまこまふんまよまれけうすうけ合葉
編うまふんまよまれけうすうけ合葉

山崎や松の尾の元興寺

蓮東



母のふのわれきちしと名

小寺 菊磨

八十三

海棠

花の白く白く多々の具多々くは白
こころもまじく多々くは白くは白の具
多々くは白く多々の具多々くは白く
こころもまじく多々の具多々くは白く
はくは白く

黄鳥

世間を木の具多々くは白くは白の具多
くは白くは白く多々の具多々くは白く
は白くは白く多々の具多々くは白く
は白くは白く多々の具多々くは白く
は白くは白く

八十四

秋

白くは白く多々の具多々くは白くは白
くは白く多々の具多々くは白くは白
くは白く多々の具多々くは白くは白
くは白く多々の具多々くは白くは白
くは白く多々の具多々くは白くは白

鶉

世間を木の具多々くは白くは白の具多
くは白くは白く多々の具多々くは白く
は白くは白く多々の具多々くは白く
は白くは白く多々の具多々くは白く
は白くは白く

大みは川らふり傳古

蘭洲





かひや横り小寝ふゆりの木

來丸

八十五

さんごゆりの木

此鳥の具あやぐは日節去先ごん
くま並合是土あやぐ

八十六

本權

辨英

此鳥の具あやぐは日節去先ごん
節去くをかね保葉のけは葉ろくや
葉のけろくは節去とぶ

鶯 鶯

此鳥の具あやぐは日節去先ごん
くま並合是土あやぐ

きんご

此鳥の具あやぐは日節去先ごん
節去くをかね保葉のけは葉ろくや
葉のけろくは節去とぶ

八十七

桃

花多牛の具上はあやうはあごらんあひ
あふれ具うてうてあまのけしあうくせう
まのけうのせうは

音呼

はあまの目の四朱どみ既白漏く飯まのけ
もくもくひひりあうまてあまうまあま
の具のてもま風切ねまうま入全祥白
偏のうまははえ尾のまいよあまうまの毛
あり朱うてはえ

八十八

鷹爪

花あまの具上はあやうはあごらんあひ
あふれ具うてうてあまのけしあうくせう
まのけうのせうは

山雀 鷓

花あまの具上はあやうはあごらんあひ
あふれ具うてうてあまのけしあうくせう
まのけうのせうは

唐韻て山雀はくしとてゆり郎

擔山



唐韻て山雀はくしとてゆり郎

蘇入山蘇入山蘇入山



蘇入

八十九

栢 又 榭 樸椒 大葉棟

栢 葉深青葉のけりりる後節去揚より栢
くは合葉土之葉どくまりのをへり

九十

木芙蓉

木芙蓉 葉白二をわり花を木の具を木の後日
節去の揚よりごらんうとら体よりつ分と
うてか白は葉のけり後葉節ま草入
けりま葉をへり

繡眼兒 目白

繡眼兒 葉とどきまにそ目の白葉どくまりごらん
こてのりより脊中まてこすまらまよ
葉のけりりりけりけりてもまらど
下腹ごらん後節まらまら

鶉

鶉 葉とどきまにそ目の白葉どくまりごらん
こてのりより脊中まてこすまらまよ
葉のけりりりけりけりてもまらど
下腹ごらん後節まらまら

雨少く合利に鳥を芙蓉

加齋



かろやうきつるの羽履媛

拳石



九十一

刈萱

花は白く葉は青く竹を束ねてのけしは小葉
をへん合つては草がまろく仕立べし

白雲雀

此草は其の奥からより地を穿てて生ずるは
上葉はけしけし風物草にして二葉はふらふら
ふらふらと生ずるは後白くふらふらと
生ずるは赤くふらふらと生ずるは

九十二

枳

花は白く葉は青く竹を束ねてのけしは小葉
をへん合つては草がまろく仕立べし

山鶴

花は白く葉は青く竹を束ねてのけしは小葉
をへん合つては草がまろく仕立べし

九十三

本綿

古終 日本民間所作是也

花は白く葉は青く竹を束ねてのけしは小葉
をへん合つては草がまろく仕立べし

九十四

藤

蔓草 黄環

花は白く葉は青く竹を束ねてのけしは小葉
をへん合つては草がまろく仕立べし

唯紅鳥

花は白く葉は青く竹を束ねてのけしは小葉
をへん合つては草がまろく仕立べし

燕

乳

花は白く葉は青く竹を束ねてのけしは小葉
をへん合つては草がまろく仕立べし

九十五

笑靨櫻

花ごらんけりて葉若のけけりて縁まうけ
いづれもあぢきうけりては

鶺鴒鳥

業鷹 青雀

此鳥は青の羽をけりて青くはよんちを
くぐりて尾切りて尾を毛を去りてみ
しりて後まで合葉をくけ下後ごらんま
同も去りてを去りて

九十六

蘭

花ごらんけりて葉若のけけりて縁まうけ
いづれもあぢきうけりては

鶺鴒鳥

此鳥は青の羽をけりて青くはよんちを
くぐりて尾切りて尾を毛を去りてみ
しりて後まで合葉をくけ下後ごらんま
同も去りてを去りて

鶺鴒鳥の持南車業の丸

曼羨





むの嶽よりる寝惚ハリケ言也

柳琴

九十七

風車

鉄線花

花わさびなり多やがはこんでうくげんか
菊のおくちををちりくはをんぞり
茶こじんゆきと茶のけはえまき茶す
はまかり

九十八

よろしといざう

むとりの具差飾まいつれをけえ茶
くせり茶れけををちりけり

茶壺

茶壺の具差飾をちりけり茶壺
けりけり茶壺をちりけり

川魚鵜

川魚鵜はもくもくする茶壺けり
あつたの具差飾もくもく茶壺けり
ごらん茶壺はもくもく茶壺けり
あつた

冠の法輝くやほりかやう

野乙



Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of the text on the right page.

本

魂鳥 西魂 折物

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of the text on the right page.

本

折物

七十一

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of the text on the right page.

本

魂

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of the text on the right page.

本

七十一

